

**令和 5 年度
同愛高齢者支援総合センター・高齢者みまもり相談室
事業計画・報告書**

第 8 期最終目標

個人と地域がつながるまち ～ひとりひとりが「ちから」支え合うまち～

町会、老人クラブの活動が活発である一方で、マンションなどの増加に伴い、住民間の交流が少なくなってきており、家内工業同士の関わりや子供を通じた関わりも減少傾向にある。

そんな時代だからこそ、昔から住む人、新たに住み始めた人、それぞれの住民の交流を増やし、昔ながらの「気持ちよく声をかけあえる関係」「ちょっとした変化に気が付く関係」ができるまちの雰囲気を取り戻したい！

困りごとがあったときや介護・医療サービスを利用するときに、どうするべきか理解している人がたくさんいる、自分の特技を地域で活かしている人がたくさんいる、そんな「強いまち」が理想である。新旧を超え、世代を超えてつながることで、自信を持って「住んだ方がいいよと自慢できるまち」になることを目指す。

人口 (人)	高齢者人口 (人)	高齢化率 (%)	後期高齢者人口 (人)	高齢者人口に対する 後期高齢者人口 (%)
45,165	7,946	17.6%	4,387	55.2%

令和 6 年 4 月 1 日時点

5 年度の到達点

～地域と共に 3 年間で振り返り、9 期に向けて前を向くことができる～

- ・ 8 期の活動の成果・課題を地域と共に振り返り、9 期の計画に活かすことができる「輪」が広がっている
- ・ 家の中から外へ、外から友人へ、友人から仲間たちへと、コロナ禍の影響からの脱却を目指す

<全センター・相談室共通業務>

1 総合相談支援

5 年度の 取組の視点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本人やその家族から、複数の課題を含む相談を受ける機会が多くなってきている。重層的な課題に対応するため、関係機関との連携体制を強化していく。 ・ 地域住民や関係機関等からの相談に対し、高齢者支援総合センター（以下「センター」という）と高齢者みまもり相談室（以下「相談室」という）が一体的に対応できるよう、専門職としての自己研鑽を継続させる。 	
結果	新規相談件数 794 件 (前年度 768 件)	継続相談件数 1990 件 (前年度 1835 件)
	<p>相談件数は前年度より増加。相談内訳で前年度より 100 件近く増加している「その他」に着目すると「立ち退きを言われているが見つからない」「階段が厳しく引越したいが、物件が見つからない」等の相談や、「郵便物の書類の内容をどうして良いかわからない。確認して欲しい」等の相談が増</p>	

	<p>加している。家賃の高騰、高齢者に貸してくれる住宅の減少（保証人問題含む）等もあり、より住宅に関する支援機関との連携を思い知らされている。また、QRコードやインターネットからの記載がある郵便物が多くなり、その記載やマークに戸惑い SOS を出す高齢者が多いことから、デジタル化に伴う支援策の検討という課題を発見できた。</p> <p>○本人の同居する家族等に関する相談の増加に伴い、様々な関係機関と連携を行った。中でも特に「くらし・仕事相談室」を活用し連携する機会が多かった。</p> <p>○職員が持っている専門性の研鑽ができるよう、法人としてバックアップを継続させた。</p>
--	--

2 権利擁護

5年度の取組の視点	<p>関係機関との連携を充実させながら、高齢者の多様な生活に則した意思決定支援を行うことで高齢者の権利侵害の予防、防止に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護事業所向けの虐待防止、意思決定支援等の研修（年1回） ・成年後見と周辺制度、相続や遺言等の地域向け講座（年2回） 	
結果	<p>虐待防止ネットワーク（研修、講座等）6件 出席者延べ45名（前年度6件90名）</p>	<p>権利擁護相談（虐待相談含む）件数63件 （前年度53件）</p>
	<p>○居宅介護支援事業所向けの勉強会を年6回実施。弁護士を交えて意思決定支援のガイドラインに沿った相談援助やケアマネジメントについて事例を用いながら理解を深め、7か所の介護保険事業所と情報を共有することができた。支援者がそれぞれの役割をチーム内で確認、理解することも意思決定支援には必要であるということも新たに共有することができた。今後は居宅介護支援事業所以外にも対象を拡大し、さらなる権利侵害の予防、防止に努めていく。</p> <p>○法テラスの弁護士を講師に招き、遺言・相続について（1回参加者計15名）、成年後見制度と周辺制度について（1回参加者計12名）の地域向け講座を実施。地域高齢者へ成年後見制度や相続・遺言についての普及啓発を図ることができた。講座をきっかけに個別の相談につながるものが複数件あったため、個別ケースの対応にスムーズにつなげる体制について検討するきっかけにもなった。</p>	

3 包括的・継続的ケアマネジメント支援

5年度の取組の視点	<p>専門職間の連携がより円滑となる仕組みを充実させ、高齢者が自宅での療養を実現することができ実現が難しいと感じることがなく、住み慣れた地域での生活が続けられるよう支援ができる体制を強化させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同愛地区 CM 管理者連絡会（年6回） ・同愛地区ネットワーク会議（年6回） 	
結果	<p>ケアマネジャー向け研修1回（前年度2回） ※地域向けの研修と兼ねて実施</p>	
	<p>○地域の居宅介護支援事業所の管理者としての課題（経営、人事管理、法令の確認等）を参加者で共有し、解決できるよう管理者連絡会を計3回実施した。特に今年度は、介護報酬改定、BCP等の居宅介護支援事業所が直近で向き合っている課題に焦点をあて、管理者間で確認し合い、自事業所の運営に活かせるような場にする事を務めた。年度総括の結果、令和6年度に、事業所管理者の視点での事例検討会を開催することが決まった。（延17事業所/延27事業所）</p> <p>○同愛地区ネットワーク会議を6回開催し（実15事業所計50名が参加）、地域課題の共有を行い課題解決に向けた策を話し合った。中でも、高齢者の外出機会の減少、体力低下の訴え等の</p>	

	地域課題が出され、ウォークラリー、体力測定会等を地域の事業所（9 事業所）企業（3 社）、ボランティア等と共同し実施した。
--	---

4 介護予防支援・介護予防ケアマネジメント

5 年度の 取組の視点	<p>昨年度重点を置いた「今できることを止めない」支援を基本に、社会情勢に合わせ「もっと活動的になれる」支援を加えながら、地域住民に介護予防の普及啓発を行いつつ、毎日のその人らしい生活が自分で続けられる視点を磨くマネジメントができるよう地域の専門職とともに研鑽する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報誌等の配布 ・体力測定会の開催支援 ・ウォーキングマップの作成、普及活動 	
結果	<p>プラン件数（自己作成）2,170 件 （前年度 2,040 件）</p>	<p>プラン件数（委託）1,189 件 （前年度 1,156 件）</p>
	<p>○「自身の身体の健康を気に掛ける」ことに目を向けていただけるよう、令和 5 年 6 月に広報誌「同愛げんき応援通信」を発行。500 部作成し、町会、民生委員、老人クラブ、自主グループ等に配布した。</p> <p>○8 町会（全 20 町会）から要請が入り、体力測定会を 8 回実施。前年度は 5 町会の依頼であったが、前記の広報誌配布後に、依頼が増えた。地域のリハビリ専門職にも協力を仰ぎ、117 名の参加者の測定をし、毎回総評後に、平均より下回った項目に着目した体操を行った。</p> <p>○ウォーキングマップを作成し、老人クラブ、自主グループ等に 200 部を配布した。完成したマップを活用していただくために、1 コース 10 名×2 コースでウォーキング講座を開催し、20 名の参加があった。1 キロのコースを、参加者一人ひとりの歩き方のくせを確認し、リハビリ職のアドバイスを参考に、修正しながら歩いていただいた。</p>	

5 認知症支援

5 年度の 取組の視点	<p>認知症を他人事ではなく身近なこととして考えてもらうよう、様々な世代、職種、自主グループ等をターゲットとし、地域住民と共に当事者やその家族を見守ることができる地域作りを目指していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症普及啓発事業（年 8 回） ・ローズティーの会（年 6 回） ・オレンジカフェ（年 12 回、うちオンライン 4 回） 	
結果	<p>認知症サポーター数 開催数 11 回 298 名 （前年度 9 回 258 人）</p>	<p>家族介護者教室 6 回（前年度 6 回）</p>
	<p>○認知症普及啓発事業として、地域住民に対し、認知症の人への接し方の講座を 1 回、介護事業者向けに他包括と合同で、事例検討を通じた多職種連携についての講座を 1 回、令和 2 年～5 年度認知症サポーター養成講座・ステップアップ教室修了者対象に、地域リハビリテーション活動支援事業の作業療法士を講師に招き、「認知症になっても今までどおり生活する方法、認知症の人との接し方、リハビリ職が関わる意味」のテーマに沿った講座を 1 回開催した。講座を通して、多くの地域住民が認知症の人との関わり方に日頃様々な悩みを抱えていることが把握できた。</p> <p>認知症サポーター養成講座は、地域住民向け 1 回、小学校 7 回、企業 3 回実施し、その結果</p>	

	<p>新たに計 298 人の認知症サポーターを増やすことができました。</p> <p>〇ローズティーの会（認知症家族会）は、参加者の意向に沿った内容で開催しているが、全 6 回参加者延べ 11 名に留まった。コロナ禍の影響で参加者が減少したため、令和 6 年度に向け広報活動を行っていききたい。</p> <p>〇オレンジカフェは、会場開催（全 8 回：延べ 103 名参加）とオンライン（全 4 回：延べ 12 名）の併用で開催した。会場の参加者が徐々に増えてきており、今後も参加者数を増やしていきたい。今年度も地域にある私立学校の吹奏楽部を招き、Xmas コンサートを開催し、多世代交流することで、参加者がとても生き活きとしていたことが印象的であった。オンライン時の参加者が限られるため、事前に説明をする等対応したものの、引き続き高齢者のデジタル化に対応できるための支援の継続が必要であると認識した。次年度から開始するチームオレンジの展開により、支援の輪を広げていきたい。</p>
--	---

6 地域ケア会議

5 年度の 取組の視点	<p>個別会議で抽出した地域課題に対し、より地域の実情に沿った第 9 期地域包括ケア計画の作成につなげられるよう関係者、関係機関等と情報共有し、検討をしていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域ケア個別会議（年 6 回） ・地域ケア推進会議（年 6 回） 	
結果	地域ケア個別会議 6 回（前年度 3 回）	地域ケア推進会議 6 回（前年度 6 回）
	<p>〇介護予防重度化防止の観点から個別ケア会議を開催し、9 期計画の事業を推進する上でヒントになる“集いの場の確保”（歩いていける距離にある活動拠点の立ち上げ）、多職種連携の重要性等を確認することができた。</p> <p>〇推進会議を 6 回開催し、地域住民や、多職種と連携して作り上げた 9 期計画及び、ウォークラリーの開催に至った。</p>	

7 生活支援体制整備事業

5 年度の 取組の視点	<p>コロナ禍で停滞していた交流・集いの場の再開に向けた後方支援と共に、地域住民が持っている「得意なこと」を活かせる場の創出に取り組み、場と担い手の確保を行う。</p>	
結果	交流・通いの場 50 件（前年 47 件）	
	<p>〇活動継続中の団体に対して現状の確認をし、活動が止まらないように後方支援を行った。昨年と比べて他者との関りを望む地域住民が増え、「気軽に立ち寄れる通いの場を作りたい」、という声が聞こえるようになってきた。そういったニーズをから、立ち上げ支援を行った結果、昨年度より交流・通いの場が 3 件増え 50 件になった。</p>	

8 見守りネットワーク事業

5 年度の 取組の視点	<p>令和 4 年度ふれあい訪問アンケートで認知度が 62%という結果が出たことを受け、相談室の認知度が 70%以上となることを目指す。また、孤立傾向にある方を早期発見、早期支援につなげることができるよう見守りネットワーク体制を強化していく</p> <ul style="list-style-type: none"> ・65 歳以上独居・高齢者のみ世帯を中心に 600 件の実態把握を行う ・高齢者が集う場に出向き、みまもりだよりの配布（6 箇所 60 回） 	
結果	実態把握 755 件（前年度 878 件）（延べ）	安否確認 6 件（前年度 7 件）

	<p>○熱中症注意喚起訪問（85歳以上、単身・高齢世帯、介護保険サービス未利用者対象）や健康状態不明者調査等を通して実態把握延べ755件実施した。実態把握では、相談室、センターの周知はもとより、趣味・特技や本人の興味があることを聞き取り、その人に合った情報提供し、本人の考える「生きがい」に繋がるよう努めた。また、支援の必要な方を発見した場合は、センターと情報共有・支援方針を話し合い、必要な支援に繋げている。令和5年度ふれあい訪問アンケートでは、相談室の認知度が66%に増加、今後も実態把握等を通して相談室、センターの周知に努める。</p> <p>○月1回開催される老人クラブ会長会や地域の自主グループ等集いの場7か所に70回出向き、みまもりだよりの配布や各種講座の案内等を提供した。その結果、同愛で実施した講座は定員を上回る参加者となった。</p> <p>○みまもりだよりの配布先を5か所（金融機関2か所、薬局2か所、コンビニエンスストア1か所）増やすことができた。地域の高齢者やその家族のみならず、配布先の関係者に対しての周知に繋がると考えている。</p>
--	---

<圏域別地域包括ケア計画の取組>

※事業ごとに記載している施策の方向性の数字は、以下を示している。

- | | |
|------------------------------|-------------|
| 1… 見守り、配食、買い物など、多様な日常生活の充実 | 2… 介護予防の推進 |
| 3… 介護サービスの充実 | 4… 医療との連携強化 |
| 5… 高齢者になっても住み続けることのできる住まいの確保 | |

事業名 趣味や特技を活かした生きがいづくり、地域のつながりづくり		施策の方向性：1
背景となる課題	<p>○地域には、趣味や特技、経験をもつ住民がたくさんいるものの、その趣味や特技を活かせる場に結びついていない現状がある。</p> <p>○地域との付き合いやつながりの重要性を感じている人がいる一方で、必要性を感じず付き合いが希薄になっている人もいる。</p>	
事業内容	<p>○墨田区社会福祉協議会とも情報を共有しながら、趣味や特技、経験を活かして活動したい地域住民に働きかけ、活動をPRするイベント等の企画・運営をサポートしていく。</p> <p>○開催方法を工夫しながら交流会の提案やサポートを行うことで、定期的に集まるきっかけをつくり、ネットワークの構築や自主的な活動の促進を図る。</p>	
5年度の取り組みの指標と方向性	投入資源 (人・場所等必要な資源)	<p>「折り紙プロジェクト」</p> <p>コアメンバー：民生委員・児童委員、児童館館長、主任児童委員、社会福祉協議会、センター・相談室</p> <p>協力団体：安田学園、本所地域プラザ等</p> <p>会議場所：本所地域プラザ他</p>
	5年度活動計画 (アウトプットの目標)	<p>・プロジェクトの概要やロゴを地域に広め、折り紙ポストを設置する</p> <p>・折り紙ポスト等で集まった地域住民が折った折り紙を作品にし、地域の関係機関に飾ってもらう</p>
	成果(アウトプット)	<p>・コア会議開催数並びに、コアメンバー数</p>

	トカム) を測る指標及び目標	<ul style="list-style-type: none"> ・折り紙ポスト設置数並びに投函作品数 ・作品贈呈数、掲示機関数
実施結果	活動の実績 (アウトプット)	<p>○3 か所折り紙ポスト、723 作品</p> <p>○安田学園の中等部の協力のもと、集まった作品を一つの作品にしてもらった。(5 作品)</p> <p>令和 6 年 3 月 20 日に「折り紙大作戦!! ~アートでつながる地域の輪~」と題して集まった折り紙を一つの作品にするイベントを開催。幼稚園児から高齢者まで 13 名が参加した。(13 作品⇒6 年度に関係機関等に掲示予定)</p>
	成果(アウトカム目標の達成状況)	<p>○コア会議開催回数: 9 回 コアメンバー数 5 名。</p> <p>○3 か所折り紙ポスト、723 作品を回収。</p> <p>○6 か所(医院、調剤薬局等) 6 作品を掲示</p> <p>コアメンバー会議を重ね、活動資金の重要性を共有してきた結果、令和 5 年 8 月さわやか福祉財団の地域たすけあい基金を申請し、助成金の確保ができた。資金確保によって、延期になっていたイベントの開催に至り、地域に活動を周知するためのアート作品のストックができ、次年度の活動に向けた準備ができた。次年度、活動を活発化させるために、賛同者を広げていくことが必須なことをメンバーで共有できた。また、折り紙を通じ、地域にある幼稚園とのパイプができ、園児の家族と繋がる機会を得られたことは、今後、センターの活動を様々な形で展開できる可能性を感じている。</p>

事業名 地域で支える介護予防の推進		施策の方向性: 2, 4
背景となる課題	<ul style="list-style-type: none"> ○介護予防の取組に対する情報が十分に浸透していない地域がある。 ○災害・社会情勢の変化に合わせた介護予防の取組に対し、地域を巻き込んだ周知活動が十分であるとはいえない。 	
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ○懇談会やアンケート調査で住民から最新の地域ニーズを把握し、そのニーズに合った情報を広報誌への掲載、介護予防普及啓発のチラシの作成・配布に活かす。 ○町会・自治会、老人クラブ等と協働し、上半期に「体力測定会」を実施することで、日常生活でできる体操プログラムを提案する。下半期に再度「体力測定会」を実施し、その効果を検証する。 ○最新の「知らなきゃ損! 損! 出前講座メニュー表」を活用してもらえよう、地域に働きかけを行っていく。 	
5 年度の取り組みの指標と方向性	投入資源 (人・場所等必要な資源)	<p>「ウォーキングマップ ~健康と元気と貯筋~」</p> <p>主担当: センター職員、相談室職員</p> <p>協力者: すみだ地域リハビリテーション活動支援事業従事者、町会、介護予防サポーター、同愛いきいきサポーター、町会、老人クラブ、民生委員等</p> <p>実施場所: 各町内</p>

	5年度活動計画 (アウトプットの目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・ウォーキングマップを完成させる ・地域に配布する ・ウォーキングマップを活用した実践講座を展開する
	成果(アウトカム)を測る指標及び目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ウォーキングマップ配布数 ・実践講座開催数、参加者数 ・事後アンケート
実施結果	活動の実績 (アウトプット)	<p>○すみだ地域リハビリテーション活動支援事業従事者、介護予防サポーター等と協働し、ウォーキングマップを完成させた。</p> <p>○老人クラブ、自主グループ等に配布した。</p> <p>○令和5年7月4日(木)「みなおそう、ウォーキング」講座を開催した。</p> <p>令和5年11月29日(水)「知らなきゃ損! 損! 見直そう ウォーキング~無理なくできるウォーキング 大きな歩幅で +10cm~」の講座を大横川親水公園ルートに絞り、北スタート、南スタートの2コースで実施した。</p>
	成果(アウトカム目標)の達成状況	<p>○完成したウォーキングマップ200部(初版)を配布。増刷は100部程度。</p> <p>○ウォーキング講座(7/4) : 15名参加</p> <p>ウォーキング実践(11/29) : 1コース10名定員×2コース 20名参加</p> <p>講座のアンケート結果から、実践を望む声が多く出たためコースを追加した。実践講座のアンケートでは、「歩く姿勢まで考えたことがなかった」「どこを歩いて良いかわからなかったが、コースが書いてあるので歩きやすい」「気分によってコースを変えて歩きたい」という声があがった。</p> <p>マップを老人クラブ、自主グループ等に配布したところ、「友達に見せてもらった。地域の会などには入っていないがマップをもらえるか?」という連絡が10件ほどあり、地域の中にウォーキングをとした介護予防の取組が広がりはじめている。“町会等、老人クラブ等に所属していないが、地域に友人はいるという”高齢者との繋がりの一歩になった。</p>

事業名 サービス向上委員会		施策の方向性 : 3
背景となる課題	<p>○墨田区の介護事業者のインターネット掲示板である「ケア倶楽部」の活用をしていない事業所があり、社会情勢等の情報や地域課題の共有が十分にできていない。</p> <p>○事業所向けアンケートの集計結果から、アセスメントからニーズを導くことを苦手としている専門職がいることがわかった。</p> <p>○介護上の困りごとが生じるまで、区の施策や介護保険制度等の利用方法を知らない住民もいる。</p>	
事業内容	<p>○介護保険制度改正等、事業所が知りたいことをテーマに、業種ごとに集まる機会を確保し、地域内の全事業所に参加を促していく。そこで情報交換や課題の共有を図り、事業所の垣根を超え</p>	

		<p>た交流ができるように働きかけていく。</p> <p>○地域の商店や企業などから協力を得ながら、同愛地区ネットワーク会議（地域ケア推進会議）の専門性が活かせるイベントや交流会を2回開催する。</p>
5年度 の 取 組 み の 指 標 と 方 向 性	投入資源 (人・場所 等必要な資 源)	<p>「ふれあい地域交流会 わがまち発見！防災ウォーク」</p> <p>主担当：センター・相談室、地域内介護保険事業所等</p> <p>協力者：医療機関、町会・自治会、老人クラブ、民生委員・児童委員、消防、警察、横網町公園事務所等</p> <p>会議開催場所：本所地域プラザまたはオンライン開催</p>
	5年度活 動計 画 (アウトプ ットの目 標)	<ul style="list-style-type: none"> ・震災後100年を迎える節目に、地域で防災を意識したウォークラリーを開催し、有事の際の避難場所や準備について知ることを契機に、体力づくりや交流の機会とする。 ・町会、老人クラブ、民生委員・児童委員、消防、警察等の協力者と、地域の介護保険事業所が繋がることを目指す。
	成果(アウ トカム)を 測る指 標 及び目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・ネットワーク会議開催数 ・会議参加者数 ・ウォークラリー協力者数、参加者数 ・事後アンケート結果 ・ネットワーク会議での振り返り
実施 結 果	活動の実績 (アウトプ ット)	<p>○令和5年10月12日「わがまち発見！防災ウォークラリー」を開催</p> <p>内容：①-1 災害対応型トイレ（緑町公園） ①-2 ソーラー充電（緑町公園） ②一時集合場所、海拔表示板、災害用トイレ受水タンク（二葉小学校） ③石原2丁目消防隊消防資器材格納庫（二葉小学校横） ④-1 消防水利（日進公園） ④-2 ソーラー園内灯（日進公園） ④-3 収納ベンチ（日進公園） ⑤消火訓練（日進公園） ⑥公園（亀沢こども広場） ⑦舟岡製作所“SUCS サークス”（亀沢4丁目会館1階） ⑧町会の備蓄庫（亀沢4丁目会館4階） ⑨防災用井戸（亀4マンション前） ⑩トイレスツール（大横川親水公園 長崎橋付近）の1.4キロのコース内で10か所のチェックポイントをグループで巡り、説明を聞いた後にキーワードをもらいゴールする。</p> <p>実行委員会を立ち上げ、地域の防災に関する箇所（同愛地区内全て）をピックアップし、ウォークラリーでコースにできそうな場所を絞った。参加者の体力を考え、距離も勘案し緑町公園スタート、大横川親水公園（長崎橋付近）ゴールのコースに設定した。</p> <p>普段何気なく通り過ぎている“防災に関係するもの”が地域にはたくさんあるということから、自分が住む街をもっと知ってもらい、有事の際に役立てられるよう内容を会議内で十分に検討した。</p> <p>○ウォーキングコース上の危険箇所を抽出し、そこに配置する人数、ウォークラリーの班のリーダー・サブリーダーの配置、チェックポイントの説明者等、必要な役割を会議で検討し、町会（自衛消防隊含む）、企業、民生委員、消防署、ボランティア、介護予防サポーター、同愛サポーター、介護事業所、行政等が会議を重ね、一つのイベントを開催した。</p>
	成果(アウ トカム目 標)	<p>○同愛地区ネットワーク会議：6回開催（本所地域プラザ）</p> <p>（※実行委員 打ち合わせ：5回）</p>

<p>の達成状況)</p>	<p>○参加者数：延べ 65 名（※企業、町会、民生委員、歯科医師、介護事業所、消防署、墨田区防災課、ボランティア、同愛サポーター、社会福祉協議会、みまもり協力員等）</p> <p>○協力者数：52 名（歯科医師会、病院、本所消防署、町会・自治会、民生委員、企業、ボランティア、介護予防サポーター、みまもり協力員、防災課、高齢者福祉課、地リハ、HH 2/6 事業所、居宅 5/9 事業所、福祉用具 2/5 事業所、小規模多機能 1/1 事業所、デイ 2/12 事業所、特養 1/1 事業所、GH 2/4 事業所）、参加者 22 名</p> <p>○事後アンケート結果：22/22 回収済（参加のきっかけが「何となく誘われたから（5 名）」以外は「興味があったから」「健康づくりのため」に自ら参加した方だった。歩く距離は「ちょうど良かった（18 名）」、「短かった（3 名）」、「無回答（1 名）」であった。内容は「新たな発見があった（18 名）」、「スタッフの対応が良かった（11 名）」であった。また、自由記載から「新たな発見だけで、驚いた」「いざという時に役に立つ内容だった」「町内を知ることができて本当に良かった」「またぜひ参加したい」という声があがっていた。</p> <p>○振り返り：スタッフ振り返りで「参加者やスタッフの笑顔が多くみられ、良いイベントだったと実感できている」「スタッフとして参加してやらされている感が無かった」「普段気付かずに通っているところに、防災に関する場所がこんなにあるなんて、驚いた。事務所に戻って共有したい」「地域の中にまだ知らない大きな力を持っている企業がたくさんあるだろう。協働して何かできそうだ」等の意見をいただいた。</p> <p>イベントを通じて、つながる機会がなかった関係者同士（例：地域の企業と町会、消防と企業、事業所と町会等）が知り合うことができたことは大きな成果といえる。</p> <p>21 名もの協力者を参加させてくれた 15 事業所の管理者の協力がなければ、成功できなかったと考えている。人手不足と言われる中、地域作りのために賛同してくれた事業所が地域にあるという強みを再確認できた。</p>
---------------	---

<p>事業名 知っ得！！多職種連携</p>		<p>施策の方向性：2, 4</p>
<p>背景となる課題</p>	<p>○総合病院と開業医の役割の違いも含めて地域に普及啓発を行う必要がある。</p> <p>○様々な情報が届いておらず、地域から孤立したり適切な医療につながらない高齢者もいる。</p> <p>○若い世代は「親が認知症になったら」という当事者意識を持つことが難しい場合もある。</p> <p>○多職種連携情報シートの活用を含め、医療分野と介護分野が生活上の問題点を共有できていないため共通言語を用いるまでに至っていない。</p>	
<p>事業内容</p>	<p>○地域の関係機関（医療・介護・地域住民等）と連携しながら「知らなきゃ損！損！出前講座メニュー表」を住民ニーズに合わせた内容に見直し、再作成する。再作成した出前講座冊子の配布先を検討し、開催方法を工夫しながら出前講座の開催（年 1 回）、地域ケア推進会議（講座内容を盛り込んだもの、年 1 回）を多職種で開催する。</p> <p>○医療との連携を強化することで、医療と介護が切れ目なく継続し、地域住民が健康に対する意識の向上ができるよう働きかける。</p>	
<p>投入資源（人・場所等必要な資源）</p>	<p>「2023 知らなきゃ損！損！出前講座メニュー表」</p> <p>主担当：センター職員、相談室職員</p> <p>協力者：医師、歯科医師、薬剤師、介護保険事業所、施術機関等</p>	

	5年度活動計画（アウトプットの目標）	<ul style="list-style-type: none"> ・「2023 知らなきゃ損！損！出前講座メニュー表」の完成 ・地域ニーズから提供メニューを考え、地域に出向いて講座をすることで、医療と介護が連携し、その持っている専門性を発揮することができ自らの役割の再確認ができる。 ・介護と医療が連携し、その姿を地域住民が目で見ること、安心して地域で暮らせるという心構えが準備できる。
	成果（アウトカム）を測る指標及び目標	<ul style="list-style-type: none"> ・メニュー表配布数 ・講座依頼数 ・講座協力機関 ・講座後アンケート
	活動の実績（アウトプット）	<p>○多職種連携会議の中で「知らなきゃ損！損！出前講座メニュー表」の見直し延期（現メニュー表には住民ニーズが網羅されているため、十分ではないか？9期計画の中で連動させる方がよいであろうという意見が多数であった）が提案され、次年度に持ち越しとなった。</p> <p>○地域から年間5メニュー（①「知って夏を乗り切ろう！熱中症は怖い☹️」②「サプリメントって何？」③「高齢者虐待について」④「あなたを狙う詐欺 自分を守る！家族を守る！」⑤「浮腫みは（むくみ）は身体SOSのサイン」）のオーダーがあった。</p>
実施結果	成果（アウトカム目標の達成状況）	<p>○メニュー表配布数：29部（老人クラブ、サロン、自主グループ等）</p> <p>○講座依頼数：5（5か所99名参加）</p> <p>○講座協力機関：4（①薬剤師 ②薬剤師 ③センター職員 ④警察、センター職員 ⑤医師）</p> <p>○講座後アンケート：91回収（「専門用語などわかりにくい言葉やわかりにくい横文字を使っていなかったか」の設問に65名が「気にならなかった」と回答し、24名が「難しい言葉があった」と回答。「内容が理解できたか」の設問に89名が「できた」「おおむねできた」と回答。無回答2名）</p> <p>5回の講座アンケートの自由記述で「薬局さんにお話をしてもらえてありがたかった」「先生の話を無料で年寄りが聞けるなんていい」「もっといろんな話を聞いてみたい」「自分が行っている薬局の先生に自分の飲んでるサプリを持って行って相談してみる」等の記載が多数を占め、専門職を身近に感じていただけた結果だといえる。</p> <p>地域からの要請が平日の日中の時間帯ということもあり、専門職の活用にも限界があるため、より協力をいただけるよう、ご挨拶廻り等の日ごろの活動を継続させる必要性を感じている。</p>

事業名 住まいでスマイル☺️		施策の方向性：5
背景となる課題	<p>○住宅改修の件数が比較的多い圏域で、段差がある家もよくみられる。身体機能の低下や、転倒に不安を抱えている高齢者が少ない。</p> <p>○相談対応等の中では施設入所の検討、申込みをする人が増えている。</p>	
事業内容	<p>○出前講座や勉強会（年1回開催）で、家庭内での事故や自宅内で留意が必要な場所への周知を行い、快適で安全な住まい環境の整備を図る。</p> <p>○地域の介護施設などと協力して、圏域内の施設や高齢者向け住宅などをまとめたリーフレットを作成、更新し、住まいに関する講座や勉強会（年1回開催）を通じて説明、配布することで自分</p>	

		に合った住まいの選択が円滑に行えるよう支援する。
5年度 の 取 組 み の 指 標 と 方 向 性	投入資源 (人・場所 等必要な資 源)	①「 住まい環境整備 」 主担当：センター職員、相談室職員 協力者：消防署、リハビリ専門職、福祉用具事業者等 開催場所：本所地域プラザ ②「 住まい方 」 主担当：センター職員、相談室職員 協力者：高齢者向け住宅・介護施設事業所、またその紹介を行う事業所等 開催場所：本所地域プラザ
	5年度活 動計 画 (アウトプ ットの目 標)	①リハビリ専門職や福祉用具事業者、消防等と連携しながら出前講座や勉強会を開催する。 家庭内での事故や自宅内で留意が必要な場所を地域で暮らす高齢者へ周知することで安全な 住まい環境を自ら考えていただくきっかけを作る。 ②リーフレットの更新と住まいに関する講座や勉強会を開催する。 生活拠点変更を考えるきっかけや変更までの流れ、留意点等を周知することで地域の高齢者が 自身にあった住まいの選択を円滑に行いやすくなる。
	成果(アウ トカム)を 測る指 標 及び目 標	①講座の回数や参加人数、講座後のアンケート ②講座の回数や参加人数、講座後のアンケート
実施 結 果	活動の実績 (アウトプ ット)	①12/8「これで安心 知って 転ぶ原因」 住まい環境講座を開催：20名参加 ②10/17「知って 高齢者施設のいろいろ 自分にあった施設の選び方」 住まい選び講座を開 催：41名参加
	成果(アウ トカム目 標の達 成状 況)	①住まい環境整備 住環境による事故、転倒リスクについて本所消防署、すみだリハビリテーション活動支援事業のPT・ OTに協力をいただき開催した。転倒に対処できる筋力の向上について実践を交えながら講義をして いただいたことで参加者から「自身の筋力が低下しており転倒に気をつける必要があると実感でき た。」というお声を約半数ほどいただいた。また、自宅の環境においては危険となる箇所や対策の周 知を行い、参加者が理解を深めてもらうことができた。今後は広く周知する方法や環境を継続して 整備できる働きかけの検討が必要。 ②住まい選び方 円滑な施設の選択ができるよう、地域で活躍している紹介事業所に協力をいただき講座を開催し た。施設を検討するきっかけや入所のタイミングなど手順をわかりやすく記載した「住まい方ずごく (施設編)」を用いて案内を実施。映像を使った疑似見学体験を合わせることでより具体的に施 設利用をイメージしていただけた。アンケートではリアル見学ツアーの希望や区内施設の空き状況、 医療面に強い施設の紹介等の要望が複数聞かれ、さらに踏み込んだ内容の情報が求められている ことがわかった。